

## 那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会 ～“住み慣れたお家”で過ごすためにいま私たちにできること～

○日 時：令和6年7月30日（火） 午後7時00分～9時00分

○場 所：沖縄県医師会・3階ホール

○参加者：61名 急性期病院 退院支援部門・那覇市内14名、

急性期病院 退院支援部門・那覇市外14名、

那覇市地域包括支援センター28名、その他5名

【目的】地域包括支援センターと急性期病院退院支援部門（MSW、退院支援看護師、医師）の連携強化を図り、患者を中心に切れ目ない在宅移行ができる目的とする。

【対象】地域包括支援センターと急性期病院退院支援部門（MSW、退院支援看護師、医師）

【方法】個人ワークおよびグループワーク（事例検討 ⇒ 多職種それぞれの視点から意見交換）

【内容】介護保険未申請の患者が入院を契機にADLが低下した場合の在宅移行について

【考察】

- 参加者アンケート回収率は92.8%であった。

- 主にMSWや看護師、ケアマネジャー・ケアプランナーの参加が多かった。

- 急性期病院側・地域包括支援センター側それぞれの役割について、概ね理解を深めることができたとの回答が多かった。

- 今回の研修会のように医療従事者と地域の支援者との顔合わせや情報交換の場の必要性について、参加者全員が必要を感じるとの回答であった。

- 参加者より、「お互いに発言を受け入れつつ、それぞれの視点や立場から率直な話し合いができた」、「グループワークを通して、お互いにどのような情報を必要としているのかが分かった」など、実際に顔を合わせて話し合いすることで、これまで疑問に思っていたことやお互いの立場の理解度が深まった。

- 今回初めての試みで、事例を通して個人ワークした上で、グループワークを行なう方法を取り入れたが、参加者より、「グループワークだけではなく、最後にスムーズな退院のためにまとめとなるような講話も取り入れてほしい」とのご意見もあったため、今後検討することとした。



## 那覇市地域包括支援センターと急性期病院 退院支援部門との連携研修会 ～“住み慣れたお家”で過ごすために いま私たちにできること～

日 時：令和6年7月30日（火） 19:00～21:00 沖縄県医師会・3階ホール  
参加者：61名

### 急性期病院 退院支援部門：

〈那覇市：14名〉 大浜第一病院、沖縄協同病院、沖縄赤十字病院、  
おもろまちメディカルセンター、那覇市立病院

〈那覇市外：14名〉 大浜第二病院、南部徳洲会病院、  
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

那覇市地域包括支援センター：安里、安謝、石嶺、大名、小禄、かなぐすく、  
〈28名〉 国場、識名、城岳、城西、新都心、泊

その他（傍聴）：那覇市役所 ちゃーがんじゅう課、  
〈5名〉 南部在宅医療介護支援センター、  
浦添市在宅医療・介護連携支援センター うらっしー

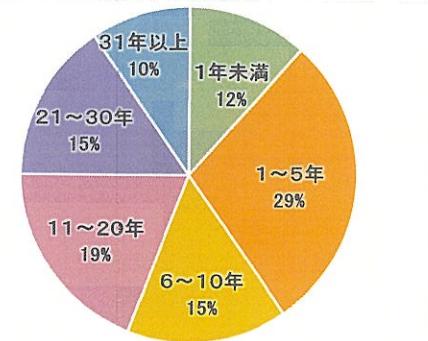
アンケート回答者：52名（回収率：92.8%）※その他5名は除いてます

### 1. 職種

選択肢	人数	割合
M S W	14	27%
看護師	13	24%
保健師	2	4%
リハビリ	1	2%
ケアマネジャー・ケアプランナー	14	27%
社会福祉士	5	10%
その他	3	6%
合計	52	100%

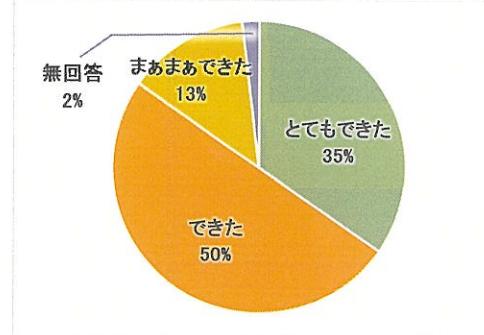
### 2. 経験年数

選択肢	人数	割合
1年未満	6	12%
1～5年	15	29%
6～10年	8	15%
11～20年	10	19%
21～30年	8	15%
31年以上	5	10%
合計	52	100%



### 3. グループワークでは、ご自身の意見を遠慮なく発言することが出来ましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	18	35%
できた	26	50%
まあまあできた	7	13%
できなかった	0	0%
無回答	1	2%
合計	52	100%



#### 【理由】

##### ◆ 地域包括支援センター

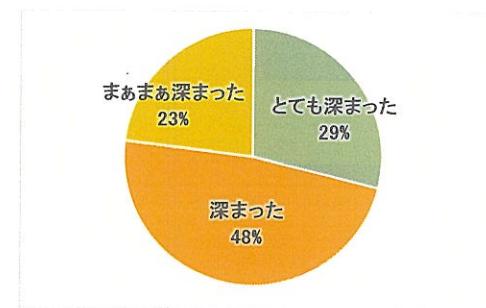
- ・医療機関と地域包括支援センターの視点や伝えたい事の意見交換が出来た。
- ・お互いに発言を受け入れつつ、率直な話し合いが出来ました。
- ・とても話しやすいメンバーでした。
- ・皆様それぞれ活発な意見が出て良かったと思います。
- ・進行役でしたが、内容が進めにくいというか…私の力量不足で難しかったです。しかし、活発にできました。
- ・進行役がすぐ決まり、スムーズな進行ができた。慣れている人が多くやりやすかった。
- ・いろいろな経験に置いて意見が聞けた。
- ・状況が理解でき、互いに話ができる、とても良かった。
- ・医療機関側、地域包括支援センター側どちらの話も出来て、こんな風な情報を持っているのか等感じることが出来た。
- ・医療機関・地域包括支援センターと事例を分けて検討したのが良かった。グループワークのテーマが広かったので、情報の共有が難しかった（何が書かれていて、何が書かれていないのか分からぬまま意見だけ伝えた感じだった）。まとめでお互いの視点を振り返れた（各自）かなと思う。

##### ◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・初対面であったが皆さん活発な意見交換が出来て良かった。
- ・グループ内はとても話しやすい雰囲気でいろんな意見交換が出来ました。
- ・話しやすく、意見交換できました。
- ・地域包括支援センター含め話しやすい雰囲気で良かった。
- ・地域側の意見を聞けたのがとても良かった。
- ・グループワークを通して、互いにどのような情報を必要としているのか分かりました。
- ・普段得られない地域包括支援センターから見た課題、視点、医療機関に求めることを知ることが出来た。他の医療機関の調整方法なども知り得て良かった。
- ・地域包括支援センターの意見や違う視点（ネグレクト疑い）を学ぶ事ができて良かった。
- ・異なる職種を混ぜたことが良かったと思います。
- ・進行役でしたが目配り気配りが足りなかつたと反省しています。自分の意見は話しました。
- ・医療機関側の持つ情報を、多忙な中でも地域包括支援センターに丁寧に伝える必要性を感じました。
- ・グループワークのテーマ（問い合わせ）がアバウトだったので、例をあげてもらえるとスムーズな話し合いが進んだかなと思いました。
- ・ファシリテーターがいるともっとスムーズだと思いました。

4. 本研修会で地域包括支援センター側・急性期病院側のそれぞれの役割について理解は深まりましたか。

選択肢	人数	割合
とても深まったく	15	29%
深まったく	25	48%
まあまあ深まったく	12	23%
深まらなかった	0	0%
合計	52	100%



【理由】

◆ 地域包括支援センター

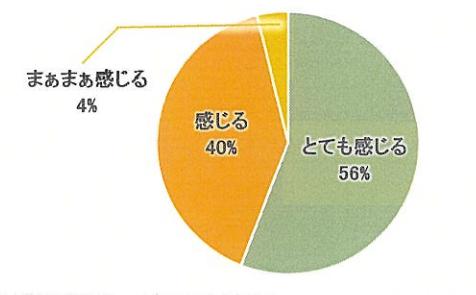
- ・お互いの役割への理解はできたが、多忙な中、本当に役割を果たせているのかな…。
- ・地域包括支援センターとは今後も関わらないといけないため、詳しく聞く必要あり。
- ・医療機関側の役割、対応できること・出来ないことの理解が出来た。
- ・それぞれの意見を聞いて、すり合わせることができて良かった。大事なポイントは同じで安心した。
- ・グループワークでお互いの話を聞けたことで、初めて知る情報があった。お互いに聞きたい情報、伝えたい情報が重なっている部分がたくさんあって良かった。
- ・それぞれ地域へ繋ぐことは同じである。
- ・報酬改定の制度的な背景も聞くことで、医療機関側の事情を知ることが出来ました。
- ・医療機関側の事情なども伺うことができました。今後もお互いに情報を共有しながらより良い支援が出来ればと思います。
- ・MSWの方々は短時間の関わりで、本人・家族への理解を深めようとする姿勢が素晴らしいと感じました。
- ・お互いの役割をもっと伝えられたら良かった。
- ・グループワークの時間を確保していただいていたので、事例だけでなくお互いの情報交換が出来た。
- ・医療機関側がどのタイミングで本人と会って動き出すのかなど知りたかった。MSWが関わるケースと退院支援看護師の役割が知りたかった。
- ・事例を通して役割分担するところ、協働して支援につなぐ重要性について再確認できた。

◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・日常業務で行っている情報収集、アセスメント、情報提供、患者ご家族との面接の重要性を再認識できました。
- ・医療機関側がどこまで対応し地域包括支援センターがどこまで対応できるのか確認できた。
- ・方法は異なっても“支援”するという思いを持っていることが知れた。
- ・地域包括支援センターが困っていることをある程度知れた。また、事例に対してそれぞれの意見を知れた。
- ・改めて連携の必要性を感じました。
- ・お互いの立場からの意見が聞けて良かった。各々の役割を理解する機会になった。
- ・それぞれの立場で困難事例を検討出来て勉強になりました。
- ・事例を通してそれぞれの立場で話しあうことができ理解しやすかった。
- ・顔を見て意見交換ができ、今後相談しやすくなった。
- ・入院して気になる人は、早めに連絡を入れた方が良いことが分かった。

## 5. 今後も同様な研修会（医療従事者と地域の支援者との顔合わせ・情報交換の場）の必要性を感じますか。

選択肢	人数	割合
とても感じる	29	56%
感じる	21	40%
まあまあ感じる	2	4%
感じない	0	0%
合計	52	100%



### 【理由】

#### ◆ 地域包括支援センター

- ・お互い多忙なため、良いサポートをするためには、対面で関係性を深めることは大事だと思います。
- ・医療機関側より情報が聞けてとても良かった。勉強になりました。
- ・それぞれの立場の話が聞けて良かった。とても有意義でした。
- ・今後、仕事をする上で顔合わせ・情報交換は必要だと思う。顔見知りだとスムーズに良い支援に繋がると思う。
- ・電話だけのやりとりよりも、互いに顔を合わせての話し合いの方が今後連携が取りやすい。
- ・直接顔を合わせて意見交換が出来た。
- ・地域包括ケアシステムの深化・推進を図り、多職種連携を実現するためには、まず顔の見える関係性を作る必要がある。
- ・忙しい医療機関で会っていた方と実際ゆっくり話せて、情報共有も出来て、とても良い場でした。
- ・顔を合わせて、ざっくばらんに話す機会が必要だと思います。
- ・顔の見える関係性が重要。
- ・情報共有やお互いに理解し合うことが大切で、顔を合わせることで身近になる。
- ・地域包括支援センターと医療機関側が抱える現状が共有でき、新たな気付きが得られた。
- ・M S Wより「地域包括支援センターの方は家屋調査はあった方が良いんですね！逆（嫌）だと思っていた」との感想がありました。相互理解のためにもあった方が良いと思いました。

#### ◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・顔を合わせるだけで、相談しやすくなると思う。
- ・顔を合わせることは大切だと思います。
- ・電話やFAXでのやり取りのみよりは、顔を合わせて話し合いが出来る方が、お互いの印象など交流することで、今後の関わりや介入がしやすくなりそうと感じた。
- ・多職種連携の重要性を痛感した。今回の2職種以上もあればと思います。
- ・今後、医療と地域のつながりは重要であると感じる。
- ・住み慣れた地域で生活を続けるためには医療機関の情報だけではニーズを満たせないため、このような場が必要だと思う。
- ・直接、地域包括支援センターの方のお話や意見が聞けて有意義な会でした。
- ・良い機会だと思い参加しました。今後もこのような機会を作っていただけたら支援の輪が広がると思いました。
- ・医療機関側の意見、地域包括支援センター側の意見とそれぞれの視点での考えを知ることが出来た。医療機関側として、今後、地域包括支援センターに繋げる時にとても勉強になった。
- ・退院支援が必要な方は多く、今後も増えることが予想されるため。
- ・事例を通して、具体的な情報交換ができる良かった。

## 6. 本研修会全体へのご意見・ご感想等ありましたら、お聞かせください。

### ◆ 地域包括支援センター

- ・とても勉強になりました。
- ・グループワークの内容も良かった。
- ・グループワークで意見交換が出来て良かった。
- ・ただの作られた事例でグループワークしただけだったので、勉強にならなかった。もっと、ちゅいしーじー那覇が主となり「スムーズな退院のために医療機関側がこういう対応をしたら自宅に帰った時、安心して生活できますよ」という講話を含めてほしかった。
- ・実際の事例を通して意見交換が出来たらと思います。
- ・様々な職種の声を拾いあげ、研修に繋げてくださり感謝しています。これからもよろしくお願いします。
- ・新しい試み、誠にありがとうございました。事務局の皆さんに感謝いたします。
- ・いつも企画ありがとうございます。
- ・毎回とても楽しみです。
- ・退院後どうだったかというところで、色々考えさせられた。グループ発表でいろいろ意見が聞けて勉強になった。
- ・医療側と地域包括支援センター側で読み込み内容が異なったため、少しグループワークが難しかったです。
- ・最後の意見交換はグループごとでやってほしかった。その方が聞きやすかったと思う。
- ・はじめの導入で戸惑ったので、やり方をスライドで説明して頂けると助かります。最後の質問（意見交換）はグループワークでまずした方が良かった。
- ・各グループ人数も多くなく、ざっくばらんに意見交換が出来た。

### ◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・グループワークで多くの意見が聞けて良かったです。ありがとうございました。
- ・企画・運営お疲れさまでした。
- ・事例を医療機関側と地域包括で分けて作っているのが良かったと思いました。
- ・職種が違うと同じ事象を見ていても視点が異なっていることが分かった。
- ・意見交換が出来て良かったです。早期情報共有がとても大切だと思いました。入院期間短縮に向けて地域包括支援センターとの勉強会等がもっと必要だと感じました。
- ・地域包括支援センターがどんな情報を必要としているのか知ることが出来た。医療機関から地域包括支援センターへ繋ぐタイミングや情報提供の仕方を工夫する必要があると思った。忙しくてもやらないといけないと思った。
- ・地域包括支援センターの方や、他医療機関の方と直接お話ができるて今後の連携に活かせる顔の見える関係づくりの場となりました。
- ・事例を通して地域包括支援センターの関わりを見ることが出来ました。このような事例で検討できるような症例の本などがあればと思いました。
- ・地域包括支援センターができること、医療機関に希望していることを知ることができて良かった。
- ・医療機関でどこまで家族に指導が出来るのか、地域包括支援センターがどこから介入できるのか理解し合えたと思います。
- ・地域包括支援センターの方より3週間前までは情報が欲しいと要望がありましたが、平均在院日数2週間もない医療機関側の状況とのギャップを感じました。
- ・グループワークだけでなく、講義もあつたら良いと思いました。地域包括支援センターの役割と、地域包括支援センターが求めていることが講義としてあっても良いかと思いました。
- ・事例の情報が少なすぎて、グループワークしにくかった。介護申請拒否の理由や経済状況、その他もろもろ。

## 7. 取り上げてほしいテーマ等がありましたら、お聞かせください。

### ◆ 地域包括支援センター

- ・身寄りのない方の入退院支援、急性期・地域包括ケア病棟・在宅部門の連携について、経済問題など。
- ・身寄りのない人の支援について、医療側・地域包括支援センター側と連携して支援したい。良い事例があれば聞きたい。
- ・訪問看護との連携について。
- ・今日の研修は有意義でしたので、またやってほしい。ハラスメント対応、特定の病気にフォーカスした研修、家族のサポートをテーマにした研修を希望。

### ◆ 急性期病院 退院支援部門

- ・身寄りのない方の支援について。
- ・同じ内容でもまた参加したいです。
- ・在宅サービスにはどのようなものがあるのかを詳しく知れる研修会があればいいなと思う。
- ・認知症への理解と対応、虐待事例を周知しそれぞれの立場で考えていく研修会。
- ・医療機関、地域包括支援センターがお互いに日頃疑問に思っていることや、聞いてみたいことを率直に聞ける時間を10分程度でも良いので設けてくれたら良いと思う。
- ・入院前スクリーニングについての勉強会・研修会を企画してほしい。なかなか、それを取りあげている研修や資料がないため。
- ・民生委員、自治会、地域包括支援センターの情報共有・会議の現状について。